

光政会・参政会合同会派視察研修報告書

令和5年9月25日～27日

報告者：光政会・岩村龍男

参加者：松本和幸議員・淵上美緒議員・岩村龍男議員

視察研修先：栃木県さくら市

1. さくら市役所（建設部都市整備課）
2. 勝山公園
3. 道の駅「きつれがわ」
4. さくら市ミュージアム

目的：栃木県さくら市の、桜の郷づくり計画が、どのような企画で、市民の皆様を動かすことができたのか、合併を起点に市の名称を「さくら」市と変更など思い切った施策はどのような流れがあったのか。

また、私たちが住む水俣もシンボルは「桜の木」、もう一度見直し

活力生まれる水俣のまちづくりに取り入れる事ができる物があるのではないかとさくら市の行政視察研修を行いました。

研修内容

合併について（平成17年3月）

*10年経過し、行政経費の効率化・財政基盤の強化・町政から市政に移行し自治体の権限の強化など、メリットがあった。

*中山間地域での、人口・高齢化率の差が拡大するなど地域間格差が、新たな課題が発生する。

桜に関する取り組みについて

*ふるさと納税や早乙女桜並木再整備募金などを「さくら市桜が咲き誇り花と緑で彩る小都市づくり基金」に積み立て、桜の整備や緑化に活用している。

また、早乙女桜並木再整備募金を活用し、1万円以上の寄付をいただくと、完成

時に銘板に本人や家族の名前が残るシステムを作り、好評をいただいている。

(寄付件数：544件)

*事業事態への、若い世代の参加がなかなか困難な状況ですが、昨年から「花と緑の小都市推進室」が誕生したことにより、新たな緑化事業を進めていくことになり若者も含めた、ワーキンググループなどを開催し、若い世代の意見を取り入れ住みたくなる、さくら市を目指します。とのことでした。

○今回の研修では、さくらをシンボルとしての、まちづくりへの取り組みについてご教授いただき、水俣市へ今後は、原点に返り「桜」をイメージした企画を提案していきたいと思います。また、今回の視察研修で「道の駅きつれがわ」も訪問させていただき、温泉施設と特産品を生かして、2017年に立ち寄りの道の駅ではなく、目的地としての「道の駅」を目指す方針を示し現在に至ったとお話がありました。(売上倍増) しかしながら、かなりの努力はされており、商品のブランド化や、ふるさと納税、日本酒の取り扱いなど幅広く取組まれた実績の説明を受けました。我々も、水俣の「道の駅」へ今回の情報を提供し切磋琢磨しながら、水俣の元気なまちづくりに頑張ってまいります。

光政会・会派視察研修報告書

令和5年10月16日～18日

報告者：光政会・岩村龍男

参加者：松本和幸議員・岩村龍男議員

視察研修先：1.「高齢者の進展・人口減少に対応した交通まちづくり」の研修

会場：リファレンス国際ビル会議室2F

2. 議席等における車椅子への対応について

東京都足立区議会・議会事務局

- 目 的 1,近年、全国的に地方での人口減少・高齢化が進むなか、まちづくりへの取組
が大きな課題として浮上しております。水俣市においても、10年前の人口
と現在の人口は、約4000人の減少で、22000人台、また高齢化率も
進んでおります。 そのような中全国的な対応と対策はどのような事がある
のか、研修会に参加し情報収集と今後の対策の方向性などを修得する為。
- 2, 水俣市において、令和5年4月に市議会選挙が行われました。新たな議員
構成16名でスタートしております。また、新庁舎の業務開始から1年が過
ぎ、様々な課題や改善が行われてきました。その中で、議場の議員席での棚
の取り除きの議論もあり、^{3F}庁舎立替委員会・各派代表者会議で協議されてま
いりました。そこで、類似した、事例、議会がないか調べ、今回の足立区議
会が対応の実績があるとのことで、視察を行いました。

研修内容

1. 「高齢化の進展・人口減少に対応した交通まちづくりの研修報告」
地方都市の人口と高齢化の現状については、高齢化率が上昇するだけでは
なく、人口そのものが減ることが問題である。その現実を見つめたうえで
高齢者の皆さんに優しいまちづくりを目指すには、交通網の整備が第一課
題である為、公共交通空白地域の拡大や自家用有償旅客運送制度の創設な
どの取組が必要というような、主な内容でした。
水俣市においては、現状「みなくるバス」の運行やタクシーを利用した移

動手段に取り組み、それなりの成果は出ていると思われるが、講演でもあったように交通網の空白地の対応や、時間帯の見直しが必要だと実感いたしました。この事を実行するには乗車される皆さんの意見の集約をおこない検討し実行する流れが必要です。5年ごとの交通網の見直しの時に備えて、住民の皆さんからの情報収集を行っていかなければならないと思いました。

2. 「議席等における車椅子の対応について」

今回、議員が使用する本会議場の机についての改善の要望について視察を行いました。内容としては、本会議場で使用する机の棚が、車椅子を使用する際、足が棚にあたるため、棚の撤去の要望があり、どのような対応ができるのか、委員会・代表者会議で協議が行われてきておりましたが、平行線のままの状態でしたので、類似した事例を取り扱われた議会である、足立区議会へと視察を行いました。

事務局の方から説明を受け、議場の議席については、車椅子使用の議員席は、棚を外してあり、スライド式の状態である説明を受けました。(写真)

また、改選や議席等の変更時については、基本その議員の方は固定の議席番号にて設定する事になっているとのことで、他の議員さんのご理解も必要である事と確認いたしました、

これからの議会運営の中では、様々な対応を考えていくことが議会人としての責務だと感じました。足立区議会については他にも取り組みがなされておりました。

私たち水俣市議会でも、お手本となれるような議会、議会運営に取り組み全国から注目される議会となるように、頑張ってまいります。





